

事業評価中間報告書

1 はじめに（中間報告書の趣旨）

宮内庁では、政策評価基本計画を踏まえ毎年度作成する政策評価実施計画に基づく政策評価を実施しており、令和2年度から令和3年度にかけて「正倉院宝物再現模造全国巡回事業」について事業評価を行うこととしている。

本報告書は、令和3年度に公表する総括的な評価（事後評価）に向け、令和2年度中の取組について、中間的な取りまとめを行うものである。

2 政策評価の対象とした政策

- (1) 政策名 正倉院宝物再現模造全国巡回事業
- (2) 担当部局名 正倉院事務所
- (3) 目標 正倉院宝物を忠実に再現した「再現模造」を2年間で全国8か所の会場で展示することにより、日本文化の伝統を継承することの重要性とその意義について紹介するとともに理解の向上を図る。
- (4) 評価実施期間 令和2年度、3年度（令和2年度は中間報告書を公表した上、引き続き評価を実施し、令和3年度に評価書を公表する）

3 事業の概要

正倉院事務所は、奈良時代より伝わる正倉院宝物の魅力を伝えるとともに、その卓越した技術を後世に伝承すること及び災害等による消失への備えを目的として、「再現模造」の製作を進めてきた。同事務所における模造事業は、昭和47年から進めており、製作に当たっては、宝物が製作された当初の姿を再現することを目指して、各種の分析装置や光学機器を用いての調査を行うことに加え、各分野における有識者の先生方の意見を聴取し、材料・構造・技法にわたって限りなく現物に近いものを製作することに努めている。

今般、天皇陛下の御即位を始めとする皇室の御慶事を記念し、これまでに製作されてきた数百点の作品の中から、代表的なものを、以下の8か所の会場において、展示するものである。

【会場】

奈良国立博物館（奈良県）
松本市美術館（長野県）
松坂屋美術館（愛知県）
沖縄県立博物館・美術館（沖縄県）
九州国立博物館（福岡県）
新潟県立近代美術館（新潟県）

【会期】

令和2年7月4日（土）～9月6日（日）*1
調整中*2
令和2年10月3日（土）～11月23日（月）
令和3年2月9日（火）～3月28日（日）
令和3年4月20日（火）～6月13日（日）
令和3年7月3日（土）～8月29日（日）

北海道立近代美術館（北海道） 令和3年9月15日(水)～11月7日(日)
 サントリー美術館（東京都） 令和4年1月26日(水)～3月27日(日)

*1 新型コロナウイルス感染症の影響により、会期を変更して開催

(当初の会期 令和2年4月18日(土)～6月14日(日))

*2 奈良国立博物館の会期変更の影響により延期。現在、会期を調整中

(当初の会期 令和2年7月18日(土)～8月30日(日))

4 事業の必要性

正倉院宝物は、製作から1260年ほど経過しており、脆弱化が相当程度進行しているため、毎年適切な修理を施したものにあっては、移動のわずかな振動や長期間の展示等に耐えかねて崩壊する危険をはらんでいる。また一部の染織品などは修理もままならない状態となっている。そのため、秋に奈良で開催される「正倉院展」では比較的状态が安定した一部の宝物を展示する以外は、ほとんど公開されていない。

このような中、正倉院宝物を忠実に再現した「再現模造」を全国各地の会場で展示することは、多くの国民に、皇室に伝わる正倉院宝物の魅力や、再現模造製作による日本の伝統文化継承の重要性について、より一層理解を深められる機会を提供できるものと考えられる。また、例年開催される「正倉院展」には毎年多くの来場があることを鑑みれば、正倉院に関する国民の関心の高さは言うまでもなく、本事業は必要性の高いものといえる。

5 現時点での効果

(1) 展覧会の来場者数

新型コロナウイルス感染拡大の影響から、当初の予定からやむを得ず会期を変更した会場、また、現在会期を調整中の会場はあるものの、令和2年度末時点で3会場の開催が終了し、来場者数については以下のとおりであった。

会 場	全国巡回事業		
	会 期	日 数	総入場者数
奈良国立博物館	令和2年 7月 4日(土) ～ 9月 6日(日)	56日	42,846人
松坂屋美術館	令和2年10月3日(土) ～11月23日(月)	52日	17,376人
沖縄県立博物館・美術館	令和3年 2月 9日(火) ～ 3月28日(日)	41日	14,567人

(2) 来場者へのアンケートについて

アンケート結果によると、展覧会の満足度について、「非常に満足」、「やや満足」の合計が94.5%（問3参照）、新たな再現模造が展示される機会があれば、展覧会に来場したいかについて、「来場したい」、「目当ての再現模造があれば来場したい」の合計が95.4%（問4参照）と肯定的な回答が、非常に高くなっている。また、再現模造が伝統の継承に効果があるかについては、「効果がある」が95.3%（問6参照）と、多くの来場者が再現模造の意義を感じたと判断できる。

また、主な自由記述意見には、「再現技術の高さに驚いた」、「奈良県以外の場所で見られることに意義がある」の意見があった。これらのアンケート結果からも、全国を巡回する展覧会の開催が多く国民に受け入れられ、政策目標である、「日本文化の伝統を継承することの重要性とその意義」について、十分な理解が得られたということがいえる。

一方、自由記述意見^{*3}として「展示品の説明をもう少し詳しくしてほしい」、「宝物の写真をそろえてほしい」といった解説や展示方法についての意見があり、今後の事業を進めていく上での参考とする予定である。

*3 本アンケート調査は選択回答形式を採用し、会場内に掲示したQRコードのリンクを経由したGoogleフォームによるインターネット調査と、同じく会場内に設置したアンケート用紙への記入による調査を行った。

どちらの調査にも自由記述式で意見を記入する欄は設けなかったものの、紙によるアンケートの一部に任意で意見が記入されており、上記の記述はこれを記載したものである。

6 所要経費

本事業を実施するに当たって、当庁は巡回展示にかかる費用を負担していない。

【アンケート結果】

問1 これまでに正倉院宝物を見たことがありますか。(複数回答可)

イ) テレビ・雑誌で見た	399	38.7%
ロ) 教科書で見た	418	40.5%
ハ) 正倉院展で見た	260	25.2%
ニ) 正倉院展以外の展覧会で見た	69	6.7%
ホ) 見たことがない	300	29.1%

問2 今回の展覧会をなにで知りましたか。(複数回答可)

イ) 新聞・雑誌	373	36.1%
ロ) テレビ	329	31.9%
ハ) インターネットの広告	98	9.5%
ニ) 博物館のチラシ	308	29.8%
ホ) 博物館のホームページ	128	12.4%
ヘ) 宮内庁のホームページ	11	1.1%
ト) 家族、友人等の紹介	180	17.4%

問3 今回の展覧会の満足度を教えてください。

イ) 非常に満足	652	63.2%
ロ) やや満足	323	31.3%
ハ) やや不満足	39	3.8%
ニ) 非常に不満足	14	1.4%
(無回答 4)		

問4 正倉院事務所では、引き続き宝物の模造事業に取り組んでいます。今後、新たな再現模造が展示される機会があれば、展覧会に来場したいですか。

イ) 来場したい	902	87.4%
ロ) 来場したくない	10	1.0%
ハ) 目当ての再現模造があれば来場したい	83	8.0%
ニ) わからない	31	3.0%
(無回答 6)		

問5 今回の展覧会を鑑賞しようと思った理由を教えてください。(複数回答可)

イ) 以前から正倉院宝物に興味があったから	673	65.2%
ロ) 再現模造の技術力に興味があったから	467	45.3%
ハ) 宝物(実物)では実現困難な点数の展示があるから	239	23.2%
ニ) 歴史全般に興味があるから	409	39.6%
ホ) 家族、友人、先生等から勧められた、良い評判を聞いたから	88	8.5%
ヘ) アクセスの良い博物館で開催されているから	221	21.4%
ト) 家族、友人等に誘われたから	103	10.0%
チ) その他	55	5.3%

問6 再現模造は宝物の滅失を防ぎ、伝統の継承に効果があると考えますか。

- | | | |
|----------|-----|-------|
| イ) 効果がある | 984 | 95.3% |
| ロ) 効果がない | 9 | 0.9% |
| ハ) わからない | 31 | 3.0% |
| (無回答) | 8) | |

問7 本展は模造品の展示であるため、より多くの地域に巡回展示する計画を可能にしました。このように模造品を展示することについて、どのように考えますか。(複数回答可)

- | | | |
|----------------------|-----|-------|
| イ) 宝物の当時の姿が偲ばれた | 731 | 70.8% |
| ロ) 実物も観たくなった | 710 | 68.8% |
| ハ) 技術力に驚いた | 770 | 74.6% |
| ニ) 各地域での巡回展には意義がある | 607 | 58.8% |
| ホ) 完成度が低かった | 11 | 1.1% |
| ヘ) 実物を観ないと意味が無い | 15 | 1.5% |
| ト) あまり各地域へ持ち出すべきではない | 14 | 1.4% |

問8 あなたの年代について教えてください。

- | | | |
|------------|-----|-------|
| イ) 20歳未満 | 107 | 10.4% |
| ロ) 20歳～39歳 | 218 | 21.1% |
| ハ) 40歳～59歳 | 368 | 35.7% |
| ニ) 60歳～79歳 | 308 | 29.8% |
| ホ) 80歳以上 | 31 | 3.0% |